



平成28年10月14日
内閣府（防災担当）

平成28年度「津波防災の日」啓発イベント 東日本大震災の教訓を未来へ ～いのちを守る防災教育の挑戦～

津波防災に関する意識向上や、適切な避難行動の定着を図るため、11月5日津波防災の日にあわせて、以下のとおり、啓発イベントを実施いたします。

1. 日 時： 平成28年11月5日（土）10:00～12:30
（津波防災の日、世界津波の日）
2. 場 所： <東京会場> イイノホール&カンファレンスセンター Room A
千代田区内幸町2-1-1 飯野ビルディング4F
<高知会場> 高知県黒潮町立佐賀中学校 （2元中継）
3. 内 容： 東日本大震災で小中学生が主体的な避難行動を実践した釜石市と、南海トラフ地震の被害想定地域である高知県黒潮町の中学生による取組発表・交流、有識者の基調講演など。詳細別紙参照ください。
4. 登壇者： 松本 洋平 内閣府副大臣（予定）
今村 文彦 東北大学 災害科学国際研究所所長・教授
片田 敏孝 群馬大学大学院 広域首都圏防災研究センター長・教授
中江 有里 女優・作家
岩手県釜石市立釜石中学校生徒
高知県黒潮町立大方中学校／佐賀中学校生徒
津波防災ひろめ隊メンバー（ふなっしー、くまモン、ちっちゃいおっさん、しんじょう君、きいちゃん） 等
5. 取材について
 - ・ 取材を希望される方は、11月2日（水）18時までに、別紙返信用紙にて、社名・氏名・連絡先・スチール／ムービーの別を事前に御連絡ください。
 - ・ 当日は、会場に受付を設けますので、9:50までにお越しください。
 - ・ 会場の都合上、取材スペースに限りがございます。あらかじめ御了承ください。
 - ・ なお、取材当日は報道機関の腕章の着用をお願いいたします。

本件問合せ先：

内閣府政策統括官(防災担当)付参事官(普及啓発・連携担当)付
本多・坂本・井場 TEL：03-3502-6984 FAX:03-3581-7510

内閣府(防災) 普及啓発・連携担当:本多 坂本 井場 行

返信用紙

FAX 返信先 : 03-3581-7510

**11月5日「津波防災の日」啓発イベント
東日本大震災の教訓を未来へ**

～いのちを守る防災教育の挑戦～

日時: 11月5日(土) 10:00～12:30

会場: イノホール&カンファレンスセンター Room A

(東京都千代田区内幸町2-1-1 飯野ビルディング4F)

※ 恐れ入りますが、下記にご記入の上、11月2日(水)18時までにご返信下さい。

貴社名	
貴メディア名	
ご芳名	(計名)
撮影機材	<input type="checkbox"/> スチール ____台 <input type="checkbox"/> ムービー ____台 <input type="checkbox"/> 無し
T E L	
F A X	
携帯電話	※当日ご連絡のつくご連絡先をご記入お願いいたします。

ご協力ありがとうございました。

平成28年度『津波防災の日』啓発イベント

東日本大震災の 教訓を未来へ

—いのちを守る防災教育の挑戦—



日時 2016年11月5日(土) 10:00~12:30(開場 9:30)

会場 イノホール&カンファレンスセンター Room A 東京都千代田区内幸町2-1-1(飯野ビルディング4F)

第1部

① **オープニング/主催者挨拶** 10:00~10:10
松本 洋平 内閣府副大臣(予定)

② **交流セッション** 10:10~11:05

東日本大震災において、日頃のいのちを守る防災教育が功を奏し、小中学生が主体的な避難行動を実践した岩手県釜石市。震災を経験した釜石市の中学生が、当時の振り返りや現在の取組、そして教訓を伝えます。また、南海トラフ地震による被災が危惧される高知県黒潮町と中継を結び、黒潮町の中学生が町を挙げての津波対策や防災教育の取組を紹介するとともに、両地域の生徒の交流を図ります。

【出演】

釜石市立釜石中学校、黒潮町立大方中学校/佐賀中学校生徒
片田 敏孝[群馬大学大学院広域首都圏防災研究センター長・教授]
津波防災ひろめ隊(ふなっしー、ちっちゃいおっさん、くまモン、しんじょう君、さいちゃん)



ふなっしー【©ふなっしー】/ちっちゃいおっさん【©UPRIGHT】/くまモン【©2010 熊本県くまモン】/
しんじょう君【©須崎市2013#337】/さいちゃん【和歌山県】



片田 敏孝氏

第2部

① **基調講演** 11:20~11:35

地震・津波の発生メカニズム、東日本大震災の振り返り、巨大災害への備え、防災教育の重要性などを、今村文彦 東北大学教授がわかりやすく解説します。

② **トークセッション** 11:35~12:30

スペシャルゲストを迎え、釜石市の地域防災の実践者、東日本大震災の被災経験を経て故郷で防災教育に携わることを目指す女子大生、そして防災の専門家が過去の教訓から、家庭や地域で今後発生する災害にどのように向き合うべきか、防災教育を中心に意見を交わします。

【出演】

今村 文彦
[東北大学 災害科学国際研究所所長・教授]
末永 正志
[元釜石市消防防災課長・津波防災伝道師]
小笠原 舞
[群馬大学2年生(東日本大震災時、釜石東中に在学)]
中江 有里
[女優・作家]



今村 文彦氏



中江 有里氏

インターネット放送局AbemaTVで無料ライブ配信決定! ご自宅のPCやスマートフォンでは非ご視聴ください。

【問い合わせ先:『津波防災の日』啓発イベント運営事務局】03-3404-2277/tsunamibousai@nifty.com 【詳しくはこちらへ】tsunamibousai.jp 津波防災ひろめ隊

観覧のお申込みは裏面をご参照ください。

観覧のお申込みについて

入場
無料

先着順

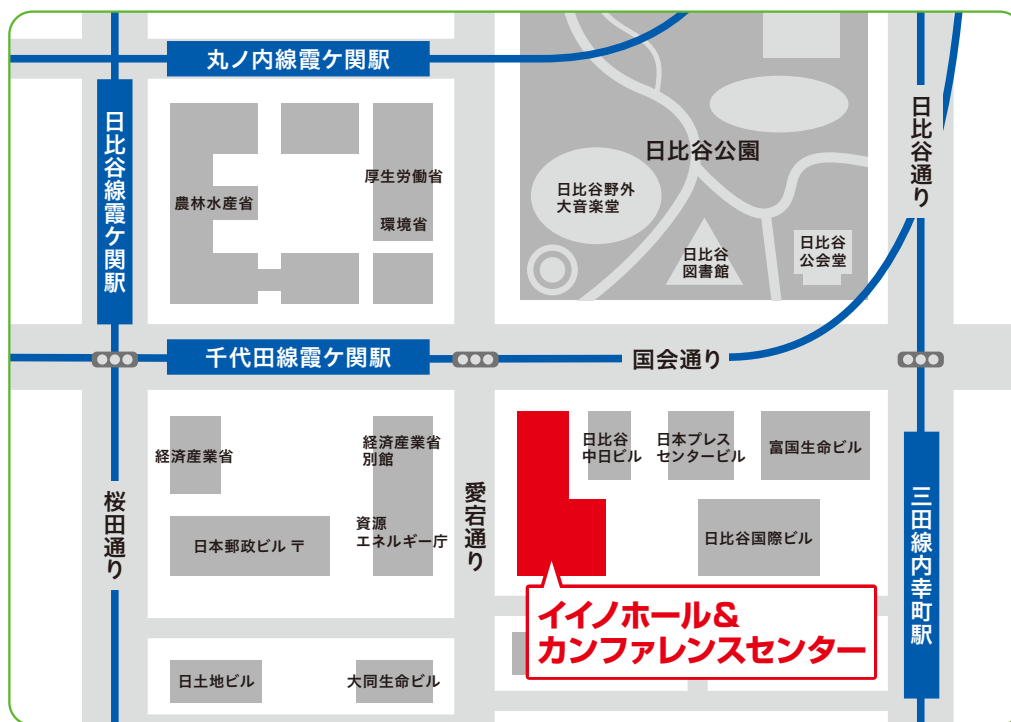
<http://tsunamibousai.jp/>

- 1 上記サイトにアクセス。
- 2 「観覧応募はこちら」をクリック。
- 3 申込み画面に代表者氏名、ご連絡先、参加人数をご入力ください。
- 4 ご参加いただける場合、確認メールを送付いたします。

※ご登録いただいた情報は他の目的には利用いたしません。※定員に達し次第、締め切らせていただきます。

会場案内

イノホール&カンファレンスセンター Room A 東京都千代田区内幸町2-1-1(飯野ビルディング4F)



- 東京メトロ 日比谷線・千代田線「霞ヶ関」駅 C4出口直結
- 東京メトロ 銀座線「虎ノ門」駅 9番出口 徒歩3分
- 東京メトロ 丸ノ内線「霞ヶ関」駅 B2出口 徒歩5分

平成28年度『津波防災の日』啓発イベント
東日本大震災の教訓を未来へ
～いのちを守る防災教育の挑戦～

平成28年10月



内閣府

実施概要

- 日時：平成28年11月5日（津波防災の日、世界津波の日）
- 場所：〈東京会場〉 イイノホール&カンファレンスセンター ROOM A
〈高知会場〉 高知県黒潮町立佐賀中学校 （2元中継）
- 対象：小中学校児童生徒及びその親、教育関係者、防災関係者 等
- 目的：①東日本大震災において、小中学生による主体的な避難行動を可能にした釜石市の実践的な防災教育の取組を取り上げ、東日本大震災の教訓を伝える。
②南海トラフ地震で甚大な被災が想定される、高知県黒潮町の町をあげての取組を取り上げ、南海トラフ地震対策の重要性を伝える。
③「津波てんでんこ」に代表される津波防災の考え方や適切な避難行動、また、津波に限らず、防災教育の在り方や、家庭・地域における取組の大切さ等を伝える。
- 配信：インターネット放送局AbemaTVで無料配信！PCやスマホで視聴可能！
- 主催：内閣府・防災推進協議会・防災推進国民会議
- 協力：内閣官房 国土強靱化推進室 文部科学省

当日のスケジュール（予定）

- 10:00～ 「津波防災ひろめ隊」によるオープニング
- 10:05～ 開会挨拶 松本 洋平 内閣府副大臣（予定）
- 10:10～ 【第1部】交流セッション
- 11:05～ 休憩
- 11:20～ 【第2部】①基調講演（今村 文彦 東北大学教授）
- 11:35～ 【第2部】②トークセッション
- 12:30 閉会



【第1部】 交流セッション（東京会場・高知会場）

- ◆ 東日本大震災において、日頃のいのちを守る防災教育が功を奏し、小中高生が主体的な避難行動を実践した岩手県釜石市。当時震災を経験した釜石市の中学生が当時の振り返りや、現在の取組、そして教訓を伝えます。
- ◆ 南海トラフ地震による被災が危惧される高知県黒潮町と中継を結び、黒潮町の中学生が町を挙げての津波対策や防災教育の取組を紹介するとともに、両地域の生徒の交流を図ります。

■ 登壇者：

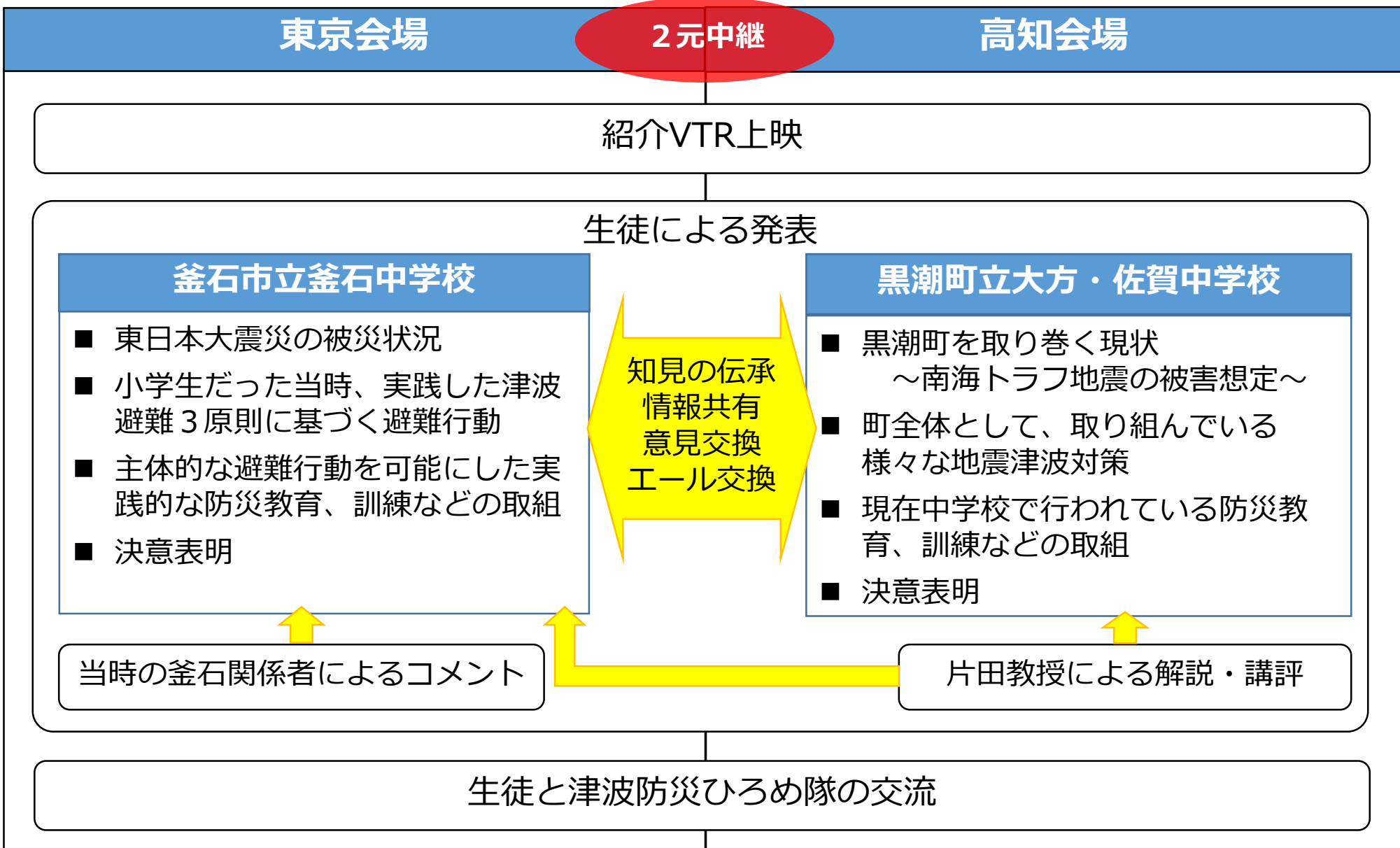
<東京会場>

- 岩手県釜石市立釜石中学校 生徒
- 末永 正志 元釜石市消防防災課長（東日本大震災発生前に、釜石市の防災教育に尽力）
- 小笠原 舞 群馬大学2年生（東日本大震災当時、釜石東中に在学、片田教授を師事し、群馬大学へ進学）
- 津波防災ひろめ隊・・・ふなっしー（船橋市）、くまモン（熊本県）、
きいちゃん（和歌山県）、ちっちゃんおっさん（尼崎市）

<高知会場>

- 高知県黒潮町立大方中学校／佐賀中学校 生徒
- 片田 敏孝 群馬大学大学院 広域首都圏防災研究センター長・教授
- 津波防災ひろめ隊・・・しんじょう君（高知県須崎市）

【第1部】 交流セッション（東京会場・高知会場）



【第2部】 基調講演&トーク・セッション（東京会場）

1. 基調講演

地震・津波の発生メカニズム、東日本大震災の振り返り、巨大災害への備え、防災教育の重要性などを、今村 文彦 東北大学教授がわかりやすく解説します。

2. トークセッション

ゲストに中江有里さん（女優・作家）を迎え、釜石市の地域防災の実践者、東日本大震災の被災経験を経て、故郷で防災教育に携わることを目指す女子大生、そして防災の専門家が、過去の教訓から、家庭や地域で、今後発生する災害にどのように向き合うべきか、防災教育を中心に意見を交わします。

登壇者：	今村 文彦	東北大学 災害科学国際研究所所長・教授
	中江 有里	女優・作家
	末永 正志	元釜石市消防防災課長・津波防災伝道師
	小笠原 舞	群馬大学2年生（東日本大震災時、釜石東中に在学）

(参考) 「津波防災ひろめ隊」による普及啓発活動

昨年度に引き続き、ふなっしー、くまモンなどのご当地キャラクター達が、津波防災意識の向上、適切な避難行動の定着に向けて、普及啓発活動に取り組みます。

■ 啓発ポスター

全国の企業、自治体等（約160団体）にご協力いただき、各地で啓発ポスターを掲出

■ POSレジディスプレイでの表示

全国のコンビニ、スーパー等のPOSレジディスプレイにて、「津波防災ひろめ隊」のビジュアルを表示

■ 津波防災ひろめ隊サイト

津波防災の情報を集約した特設ホームページによる情報発信

<http://tsunamibousai.jp/>

■ 啓発動画

ホームページ、YouTubeでの公開とともに映画館、商業施設モニター等での上映

平成28年度ポスターデザイン



(参考) 「世界津波の日」 制定について

- ◆世界各地で津波に対する防災意識の向上を図るため、昨年12月、国連総会において、日本政府主導のもと、142か国の共同提案により、全会一致で、11月5日が「世界津波の日」として制定されました。
- ◆日本国内においても、「津波防災の日」とあわせて「世界津波の日」の普及に取り組んでまいります。

2015年12月の国連総会において、 毎年11月5日が 「世界津波の日」に制定。

津波について正しく理解して、津波対策を進めよう。

世界中で津波によってもたらされるリスクに懸念する人々の数増を向上し、津波対策を強化するため、日本をはじめとする世界142か国の共同提案により、2015年12月の国連総会において、毎年11月5日を「世界津波の日」に制定され、津波対策に関する新たな取り組みが始まりました。

世界中で、これまで幾度も津波による甚大な被害に見舞われてきました。

1960年のチリ、1976年のフィリピン、1998年のバングラデシュ、1999年のトルコ、2001年のペルー、2004年のインド洋沿岸諸国、2009年のサモアおよびトンガ沖、そして、2011年の東日本大震災など、世界各地で津波被害が発生しており、津波の脅威は多くの世界共通の課題となっています。

津波防災は世界中に広がっています。

東海発生例 紀伊半島1610年～2014年に発生した地震、火山噴火、地滑り、その他



1700年以降に発生した最大級の津波では、死者は15,000名を超えてい-

◎2011年東日本大震災(1.1)による死者・行方不明者22,335名
◎2004年インド洋沿岸津波(12.26)による死者・行方不明者227,898名
◎2001年ペルー津波(7.1)による死者・行方不明者170名
◎1999年トルコ津波(10.6)による死者・行方不明者17,000名
◎1976年フィリピン津波(8.16)による死者・行方不明者162,000名
◎1960年チリ津波(6.9)による死者・行方不明者2,935名

日本では、2011年に「津波防災の日」を法定。

日本では、東日本大震災が発生した2011年に、津波対策について国民の理解と関心をより一層高めるために、法律で「津波防災の日」を制定し、全国各地で津波防災訓練や意識啓発の取り組みを実施しています。11月5日は、寛永7年(1854年)、安政南海地震(M_s8.4)による大津波が紀伊半島を襲った日です。その前、和歌山県のある村の郷土が、収穫したばかりの稲を積み上げた「稲むら」に火を放って、稲藁の中で逃げ遅れた村人を高台に導き多くの命を救ったという出来事がありました。この「稲むらの火」の逸話に因んで「津波防災の日」として11月5日が選ばれました。



津波から身を守る心得

- 1 海岸近くで大きな揺れを感じたら、直ちに、高いところへ避難しましょう。
- 2 津波は繰り返し襲ってくるので、安全が確認されるまで避難場所に留まりましょう。
- 3 地震が起きたら、ラジオやテレビなどを通じて行政等が発表する津波情報を確認しましょう。
- 4 日頃から、津波避難場所や避難ルートを確認し、避難訓練をしておきましょう。



(参考) 内閣府が自治体と共催する津波防災訓練

訓練内容

シェイクアウト訓練

訓練開始合図（防災行政無線等）で、自らの身を守る安全確保行動を1分から数分間実施

津波避難訓練

防災行政無線による情報伝達訓練等を活用し、最寄りの避難場所等へ避難



その他

情報伝達訓練、物資配給訓練、炊き出し訓練等（※地域により異なる）

